



日本共産党

党加古川市教育政策委員長



吉田くみこ

加古川市には 70 か所の投票所があります。しかし、上荘町には上荘会館と小野公会堂の 2 か所しかありません。

上荘町全体の世帯数は 1,958 世帯で、そのうち都台は約 600 世帯を占め、町内の約 3 分の 1 が暮らしています。それにもかかわらず、都台には投票所が設置されていません。

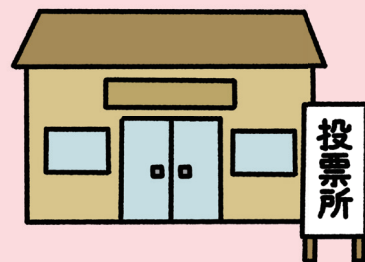
市民からは「高齢になり投票所まで行くのが大変」「都台にも投票所を設置してほしい」という声が数多く寄せられています。

これまで市は、「階段がある」「土足で入場できない」などを理由に設置できないとしてきました。しかし現在は都台コミュニティセンターが整備され、投票所としての条件はクリアされています。

ところが今度は「費用がかかる」という理由で設置を見送っています。市民からの要望に対し、「町内で調整してほしい」として行政が責任を果たそうとしていません。

加古川市では投票率の低下が課題となっています。投票しやすい環境を整えることは行政の重要な役割です。また、市の財政調整基金は十分な残高を有しており、投票所新設に必要な費用は十分に確保できます。

日本共産党加古川市議団は、市民の参政権を保障し、投票しやすい環境を整えるため、都台コミュニティセンターへの投票所新設を強く求めています。



「投票したくても遠くて行きづらい」そんな声をなくし、誰もが気軽に投票できるまちへ。都台への投票所設置を実現しましょう。

チョイソコかこがわ、デマンドタクシーの運行を上荘町にも広げましょう

上荘町は約 1,700 世帯が暮らし、高齢化率は約 36%と加古川市内で最も高くなっています。高齢者の移動手段を確保するため、平成 25 年から「上荘くるりん号」の運行が始まり、現在は平荘町にも広がっています。

しかし、住民からは「運転手確保への市の支援を」「医療センター方面にも行けるようにしてほしい」との声が上がっています。

公共交通運営協議会ではバスやタクシーとの競合が

指摘されていますが、上荘町にはタクシー会社がなく、利用には神野駅周辺の事業者へ配車を依頼しなければなりません。

高齢者の買い物や通院の足を確保するため、日本共産党加古川市議団は、上荘町への「チョイソコかこがわ」などデマンド型交通の導入を求めています。

